

長であった生徒は、「いきなりの避難訓練だったので、最初はどこに行けばみんなが安全に行動できるかを考えすぎて迷ってしまった。落ち着いて考え、素早く行動できるようにしたい。」と感想を述べており、予告なしで、しかも遠足中に実施することで、より実践的な訓練ができたようである。

(ウ) 上島町一斉防災訓練（5月26日）

上島町一斉防災訓練は、毎年中学生も参加をしているが、今年度は学校からも生徒や保護者に積極的な参加を呼び掛け、例年以上に大規模に実施された。地域にどんな方々が住んでいるのか、どこを通過してどこに避難すればいいのかなどを再確認することができた。地域によっては、発電機を使って電気を付けたり、仮設ベッドを作ったりするなど、充実した訓練であった。生徒たちは普段あまり知ることのない地域の自主防災活動や組織を知るよい機会となった。中学生の力が必要な場面も多くあったようで、地域の方からも実際の場面での中学生の活躍に期待の声が挙がっていた。



〈遠足時の避難訓練の様子②〉



〈地域合同避難訓練の様子〉

生徒の感想
防災マップを見ると、私の家は土砂災害危険区域の中に入っていた。大雨が降ったり警報が発令されたりしたら、素早く避難しなければならないと思った。（1年女子）
今回は、非常用ライトや発電機などをたくさん見たり、体験したりすることができたのでよかった。いざというときのためにしっかり覚えておきたい。（3年女子）
避難所や、災害時に自分たちでできることを確認できたのがよかった。災害はいつ起こるか分からないので、一回一回真剣に取り組みたい。（3年男子）

(エ) 予告なし避難訓練②（昼休み 10月11日）

どのような場合でも自分たちで考えて適切な行動を取ることの大切さを意識させるために、2学期の休み時間に予告なしの避難訓練を実施した。従来の避難訓練は担任主導で行われるものが多いが、実際には授業以外の時間帯に地震が発生する可能性の方が高い。そこで、昼休み中に訓練用の緊急地震速報を流し、生徒たちがどのように判断し、行動するかを観察した。生徒たちは今まで学習してきたことを踏まえて、その場で迅速に安全な姿勢をとり、整然と一次避難場所である運動場へ避難した。



〈予告なし避難訓練の様子〉

この避難訓練は従来の避難訓練より実践的な訓練になった反面、実際にやってみることで見えてきた課題もあった。例えば、特別教室やトイレなどに残っている生徒の確認が難しく、残留生徒の有無を確認するために時間がかかることが考えられる。教職員は自分がすべき最善のことを自分で

判断して行動しなくてはならないが、生徒の安全確保に努めていくことはもちろん自分の安全も確保しなくてはならないなど、避難について改めて考える機会となった。

#### イ 防災カルテの作成

「防災カルテ」とは避難の際に携帯できる、何か起きた時に他の人に自分のことが伝わるようにメモしたカードのことである。地域によって起こり得る災害リスクや被害特性が異なるため、自分たちの住む地域の特性を理解した上で、効果的に防災・減災対策を進めていくことが大切である。岩城地区では、大雨や地震による土砂災害や高潮や津波による浸水被害が想定される。そこで、家庭や地域と連携し、地域の実態に合わせた避難の仕方を考えさせ、また地域の防災力の向上につなげるために、「防災カルテを作成することにした。

「防災カルテ」はA5サイズで2部作成し、表面には家族の情報や連絡先等を記入し、裏面には地区の避難場所や集合場所について掲載した。作成する上で、家族と防災について話し合うよい機会としてもらうために、家族としっかり話し合っけて記入することを重視した。出来上がったものは、1部は自宅のよく見える場所に保管し、もう1部は自分の通学カバンに保管するようにした。

#### ウ 災害伝言ダイヤルの利用

「災害伝言ダイヤル（171）」とは、地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される、声の伝言板のことである。上記の「防災カルテ」は、あらかじめ家族で話し合った避難場所に避難することを想定しているが、「災害伝言ダイヤル」は、想定外の事態になったときに家族と連絡を取るのに有効である。なお、毎月1日及び15日や防災週間など、体験利用できる期間がある。

授業では10月1日の体験利用日に、「防災カルテ」の作成に合わせて、それ以外に家族と連絡を取る方法として紹介し、実際に体験してみた。災害伝言ダイヤルのかけ方を確認した後、実際に伝言を録音したり、再生して聞いたりして、いざという時の練習を行った。生徒は、緊張しながらも音声ガイダンスに従って、真剣な態度で練習した。必要な情報を30秒でまとめて伝えることは難しく、言葉足らずになったり時間が足りなかったりとうまくいかない生徒もいたが、実際にやってみることこそが後に生きてくると考えられる。また「防災カルテ作成」も「災害伝言ダイヤルの利用」も、家族と防災について話し合うきっかけとなるように、学習したことを家庭で家族とともに実践するよう指導した。

**災害・避難カード**

わたしの情報		家族の緊急連絡先	
氏名		氏名	続柄
性別	血液型	連絡先 (電話番号)	
生年月日			
住所			
電話番号			
留意事項 (持病、飲んでいる薬など)		★ 電話がつかないときは、 171(災害伝言ダイヤル) ※ 音声説明あり ↓ 自分の居場所や無事を伝える <b>録音「1」</b> 家族等の居場所や無事を知る <b>再生「2」</b> ↓ 連絡をとりたい人の電話番号入力(市外局番から)	

〈防災カルテ：表面〉

**わたしと家族の防災カルテ**

**CHECK! 自分の避難場所を確認しよう!!**

地震・津波	台風	土砂災害(その他)
-------	----	-----------

★ 学校へ行く途中、帰る途中で大きな地震があったら、わたしは  で、保護者を待ちます。

★ 家族に伝言を残す場合(家族と会えない場合)は、家の  に張り紙をして、上記の場所へ避難します。

★ 学校で大きな地震があったら、先生の指示に従って、保護者が  まで、迎えに来るのを待ちます。

〈防災カルテ：裏面〉



〈災害伝言ダイヤルをかける様子〉

#### (4) 防災管理体制・防災環境の整備推進

##### ア 危機管理マニュアルの改善

災害時に想定外のことが起こったとしても、適切な危機管理マニュアルがあれば、それを基に臨機応変な対応ができ、迅速に安全を確保することができると考え、危機管理マニュアルの見直しを毎年実施している。特に本校周辺は、土砂災害警戒区域に指定されており、十分な検討が必要であると考え、今年度は4月当初に、昨年度の豪雨災害における被害状況を加味しながら、避難経路と避難場所について次のように再検討を行った。

- ※ 一次避難場所・・・「運動場」 (南側) 自転車置き場前
- ※ 二次避難場所・・・「知新館」 に避難 【津波警報発令時等】  
↓ 【知新館付近の鶴山が土砂崩れの場合】
- ※ 二次避難場所・・・「南校舎3F」 に避難

今後も、教職員で避難訓練後に課題を出し合い、様々な災害に対応できるよう、見直しを行っていききたい。

##### イ 校内防災環境の整備

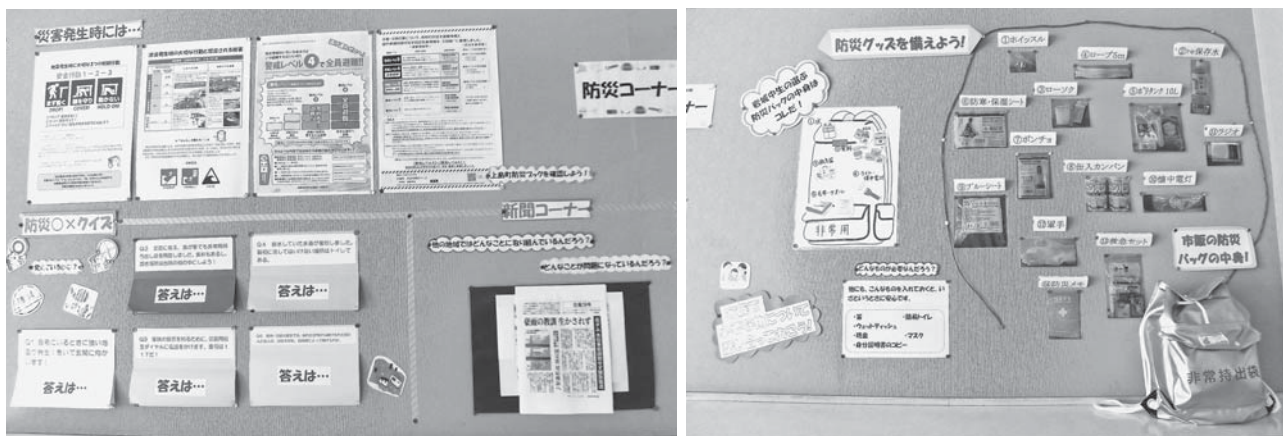
危機管理マニュアルや防災カルテ等は、職員室の所定の位置に配置し、教職員が必要に応じて活用したり、震災時に持ち出しができるようにしたりしている。

また、毎月5日を校内安全点検の日とし、全教職員で安全な環境を維持し、事故災害防止に努めている。点検の確実を図るため、3班に分けて点検し、学期ごとに担当区分を交代して新たな視点で危険箇所がないかを確認している。

1年生が「校内安全マップ」の作成の際に校内点検をし、問題点として挙げられた廊下に設置されている掃除用具や掲示板については、冬季休業中の職員作業で撤去する予定である。

##### ウ 防災コーナーの設置

生徒の防災に対する意識を高めるために、校内掲示板の一部に防災に関する掲示コーナーを設けた。上島町の危機管理室の問題を参考にした「防災〇×クイズ」や、新聞から豪雨災害や台風被害、津波被害を中心とする記事を掲載した「新聞コーナー」など、災害に関する実情や基本的な知識を身に付けたり、今後の防災・減災に役立つ情報を得たりできるような内容を掲示した。また、保健体育委員会で紹介した「防災バッグ」の実物や「岩城島内の防災マーク」の意味を掲示し、生徒が家庭でも防災について話し合い、災害発生時に的確に判断する力や、日頃から備えておく行動力を育めるようにしている。



〈校内掲示：防災コーナー〉

### 3 小・中連携の取組

#### (1) 小・中合同避難訓練

岩城地区では1学期及び2学期の終業式を終えた午後、地区別の奉仕作業を小・中学生が合同で行っている。今年も、奉仕作業の後、合同避難訓練を行い、避難所の場所や避難経路の確認を行う計画を立てていた。しかし、当日は悪天候のため実施できなくなったので、日を改めて実施することにした。

9月13日、この日は、運動会の準備のため小中学生が一同に集まる機会となったため、急遽、延期していた合同避難訓練を行った。地区ごとに分かれて、小・中学生のメンバーや避難場所、避難経路の確認などを行った。

地区別奉仕作業・合同避難訓練 一覧表(令和元年度 7月)

★ 7月19日(金) 13:30から地区別奉仕作業を行い、その後、14:00より地区別小中合同避難訓練を行います。

上島町立岩城小学校  
上島町立岩城中学校

地区	海原・東	西	高原・大谷	新地・谷	浜	西部	赤石	小湊	長江	船越
集合場所	亀山遊園	役場の自転車置き場	高原集会所	鹿島神社	小学校正門	西部海水浴場	栗樹試験場	小湊港	長江港	船越集会所
作業場所	亀山遊園	Aコープ・役場・港務所付近	高原	鹿島神社	ゲートボール場→こまがくし	西部海水浴場	赤石公民館→赤石海岸	小湊港周辺	低溫貯蔵庫大通り	幸崎・高校付近
ごみ回収場所		ミステリー前	ミステリー前	鳥の神遊園	小学校正門	西部集会所	赤石集会所	岩城北集会所	長江港周辺	橋
役割分担	燃えるごみ出ビン	燃えるごみ出ビン	燃えるごみ出ビン	燃えるごみ出ビン ごみ拾い	燃えるごみ出ビン	燃えるごみ出ビン	燃えるごみ出ビン	燃えるごみ出ビン	燃えるごみ出ビン	燃えるごみ出ビン
準備物	軍手 帽子	軍手 火ばし ゴミ袋 帽子	軍手 火ばし ゴミ袋 帽子	軍手 火ばし ゴミ袋 軍手 帽子	軍手 火ばし ゴミ袋 帽子	軍手 火ばし ゴミ袋 帽子	軍手 ゴミ袋 帽子	軍手 火ばし ゴミ袋 帽子	軍手 火ばし ゴミ袋 帽子	軍手 火ばし ゴミ袋 帽子
児童数	8	6	4	12	13	10	6	4	4	3
生徒数	5	4	3	5	5	4	4	10	5	1
担当教員	小 菅(理)	小 林	船原教頭	石丸	渡部	前神	菅(博)	向井	松浦	山口
中 廣瀬	田中	井上	村上教頭	野間	前神	前神	澤村	石川	門岡校長	
避難場所	八幡神社境内	岩城中グラウンド	岩城中グラウンド	鹿島神社 とん山	浜地区集会所	祥雲寺	栗樹試験場	岩城北集会所	長江集会所	船越集会所



〈避難場所や避難経路を確認し合う様子〉

#### (2) 小・中合同防災学習会

9月25日に愛媛県土木部砂防課と愛媛県砂防ボランティア協会の方々を講師に迎え、防災学習会を開催した。まず、体育館で土砂災害が起こるしくみや災害が起こったときの被害などについてスライドを見ながら学習した。その後、地すべりや土石流等が起こる様子を簡易模型を使って実験して下さった。土砂や地すべりによって家が流されていく様子を知った児童・生徒たちは、その怖さを感じ取ったはずである。岩城島にはそんな危険箇所がたくさんあることを、防災マップでも確認することができた。



〈土砂災害のしくみを学ぶ様子〉

体育館での学習を終えた後、運動場に移動して、実際の自然の猛威を体感できる学習も行った。この日は、保護者や地域の方も参加されており、児童・生徒とともに土石流3D体感シアター、降雨体験、起震車体験の3つを行った。普段経験することがない豪雨や大きな揺れ、迫ってくる土石流映像は、自然の恐ろしさ学ぶ貴重な体験となった。



〈防災マップで危険箇所を確かめる様子〉



〈180mmの豪雨を体験する様子〉



〈震度7の揺れを体感する様子〉